

伝統ある^{おうぎ}扇だこをあげよう

私の少年時代は、正月に^{たこ}扇あげが定番でした。父に教えを受け、三角、四角、菱形、^{やっこ}奴扇などたくさん作りしました。作り終わると誰が一番高くあげるかの競争でした。

そんな私の扇だこの出会いは、広報ふじみで募集していた扇だこ教室に応募したことです。孫と扇揚げをしようとしていた矢先でした。

扇だこを作り始めると、その歴史に感動を覚えました。その話を少しさせて頂きたいと思います。

扇だこの起源は越後の^{さかづき}盃扇。その後、改良創作され左右に風袋を持つ弱い風でもあがる扇ができた。絵は牛若丸、弁慶等8種類の武者絵。創始者は富士見市上沢の大曾根龍蔵氏(明治43年没60歳)。最盛期は、大正から昭和初期で年間2万個以上作成されました。戦後に一時期たこ作りが断絶しましたが扇だこの復活を望む声があがりました。三代目勝男氏(昭和61年没77歳)は、小学2年頃から18歳頃まで二代目父福太郎氏の手伝いをして記憶を紐解き、苦勞の末、昭和47年(1972)、復元に成功。その後、昭和51年(1976)南畑公民館にて講習会を行い普及に努めました。そして翌年には扇だこ保存会が発足、技術指導を行いました。その功勞により埼玉県から文化ともしび賞を受賞しました。現在は四代目技術継承者として力雄氏(上沢在住81歳)が指導及び製作に情熱をそそいでいます。その品は川越の伝統民芸店『つちかね』でも求めることができます。

このような歴史を知る中で私は愛好会(保存会)に



入会しました。今は扇だこが永く継承されることを願っています。以下は扇だこの作り方です。
竹の調達：1月に節の長い竹を切り出す。

竹割：7種類の部材毎に長さを合わせて切り、ナタで割る。

骨作り：平均幅2~3mm、厚さ1.5~2.5mm。

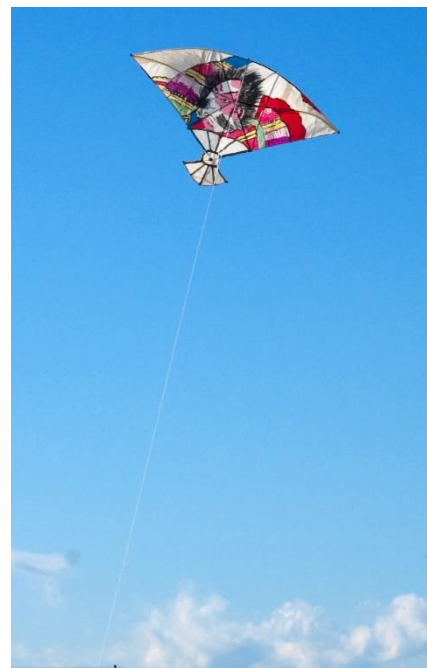
骨の種類により幅、厚さは異なる。竹の内側を削り寸法に仕上げ、両端に組むための割れ目を入れる。

骨組：頭骨から尻骨まで計10本を和糊と麻糸を使い18カ所すべて隙間に食い込ませて貼り止める。止め方は先人の生活の知恵から生み出された方法。

紙はり：和紙(細川紙)を胴体、下袖、上袖に切り分けて貼る。のりが乾いたらはみ出した紙を切る。

絵付け：2日に分けて絵を描く(1色ずつ乾くまで待つことが大切)。1日目は墨で輪郭を描く。2日目は薄い色(黄)から最後は赤色を塗って仕上げる。

各工程とも奥が深く技術を要するため、何度もやり直す日々です。例えば竹の幅、厚さが寸法に揃わず。骨の組み立て間違い。紙の裏表の間違いなどなど。悪戦苦闘の連続ですが、会員同士補いながら1年間かけて完成までたどり着く喜びはひとしおです。今年は、1月に扇揚げをして認知度を高める活動をはじめました。空を舞う姿は、光を通し美しい色合いを醸し出します。現在の活動拠点は難波田城資料館。毎月第一土曜日午前9時30分~12時まで。大曾根氏指導の下、製作活動中です。資料館にお越しの際は是非お立ち寄りください。



市民学芸員のページ *このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちょっと拝見 みどころ紹介

石造物シリーズ③ 『南畑村記念碑』

高さ二三〇cm×幅六七cmと難波田城公園の石造物の中で一際大きなものが『南畑村記念碑』です。昭和三十一年に鶴瀬村・水谷村・南畑村が合併して富士見村が誕生、その合併五周年に南畑の開発の歴史を長くこの地の人々に伝えるため旧南畑村役場の地(現J A南畑支店)に建立されたものです。

題字は、栗原浩埼玉県知事(当時)が揮毫しました。碑文の内容は、かつては水害常襲地帯であった「難波田」の地名を「南畑」に改めたことに始まり、幾度となく繰り返される荒川および新河岸川の氾濫の歴史が記載されています。そしてその惨状から村を救うため明治から大正にかけて治水工事が一步一步進められたこと。昭和になってからは、戦前・戦中の耕地整理、戦後の交換分合や農地開拓によってかつての水害地が米どころに一変したこと。さらに機械化も取り入れられ諸外国からの視察もあって、農業に関係する者で南畑を知らない者はいないまでになったと書かれています。

一見すると自画自賛の様ですが、何百年も水害に苦しんできたからこそ米どころへと変貌した喜びも一際大きく、それが屈託なく表現されています。明治期に始まる開拓の歴史は、この地に限らず日本各地に及ぶものです。『南畑村記念碑』は、変わりゆく時代の中で日本人が忘れかけている開拓の苦勞と垂り穂の喜びを思い起こしてくれる気がします。(吉田 英生)



南畑村記念碑
園内田んぼ前にある。

おもしろ・なつかし体験⑥2

やぶさめごっこ

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

疾走する馬に乗って的に矢を射る「流鏑馬」は、日本の伝統的な馬上武芸です。祭礼やイベントとして、毛呂山町や川越市で行われています。難波田城公園では「やぶさめごっこ」として体験してもらいました。

講座室で、馬に見立てた健康器具にまたがって、3mほど先にある的をめがけて、矢の先に付けた発泡スチロールの玉を飛ばします。本物の馬にまたがったの体験ではないので、少し迫力には欠けませんが、親子で一緒に楽しめるので大変好評でした。大人のグループも、夢中になって参加していました。

走っている馬のように前後に動く健康器具からの的当ては、矢を放すタイミングが難しく思うようには飛びません。それでも何回かチャレンジすると、だんだん当たるようになっていきます。的の中心にある赤い印に当たると、思わず歓声があがりました。お父さんと一緒に体験した女の子が「馬が可愛かった。とてもおもしろかった。」とうれしそうな顔で感想を言ってくれました。参加したみなさんは、武士になった気分で「やぶさめごっこ」を楽しんでいました。(古澤 立巳)



人の創ったもの★人の使ったもの

私年号板碑

平成 31 年 3 月 21 日、年号の歴史をめぐる新聞記事で、当館所蔵の「私年号板碑」が紹介されました。

私年号とは

戦国時代には、朝廷が定めたものと異なる年号が流布することがありました。それらを「私年号」と呼びます。戦乱や災害が続いている時期に改元の噂が流れると、信じられやすかったといわれます。

板碑とは

鎌倉時代から戦国時代に盛んに作られた、板状の石碑です。塔婆の形で、上部に仏を示す梵字を刻み、下部に年月日や人名、経文などを刻みます。仏への信仰や、死者の供養のために建てられました。富士見市内で、これまで六百点以上が見つかっています。

福德年号板碑

新聞で紹介された板碑は、当館常設展示室の展示資料です。難波田城跡で発見されたものです。高さ 66 センチとやや小振りで、「妙鏡禪尼」という女性の戒名(法名)が刻まれています。文字が金色や黒色に見えますが、これは下地に接着剤として漆を塗ってから金泥(金粉を膠で溶いたもの)を塗った名残です。辛亥という干支も刻まれていることから、1491 年(延徳 3 年)に作られたものと考えられます。

「福德」年号を持つ板碑は、埼玉南部から多摩を中心に分布し、50 例以上が知られています。そのうち 6 例が富士見市内で見つかっています(詳しくは平成 16 年春季企画展図録『富士見之板碑』をご覧ください)。市内の板碑を年代順に並べると、延徳 2 年(1490)3 月の日付を持つ板碑の次に、福德元年庚戌(1490)12 月の板碑があります。そして福德 2 年の板碑が 4 例あるのに、延徳 3 年と刻まれた板碑はありません。この地域では「福德」に改元したと信じられていた可能性があります。

福德への願い

「福德」の 2 文字は、良い意味の字の連なりで、いかにも年号らしい雰囲気です。しかし、意外なことに、公式の年号で「福」が用いられたことは一度しかありません(天福：1233-1234 年)。

この時代、福・徳の 2 文字とも、現在以上に経済的なニュアンスがありました。福神は貧乏神と対に

このコーナーでは、地元に関する資料を紹介いたします。今では使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

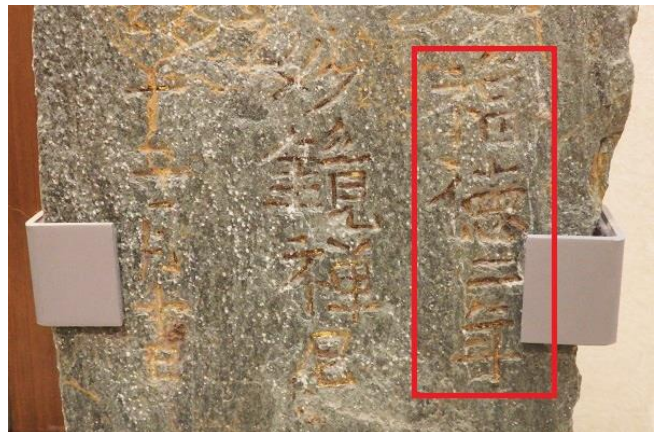
なる、豊かさをもたらす神であり、富んだ人を「有徳者」、借金帳消令を徳政令と呼ぶなどです。その背景として、貨幣経済の浸透による貧富の格差も拡大していました。

また、この頃の関東地方は、二大勢力の対立による戦乱が続いていました。相次ぐ災害や飢饉の記録も残されています。

そのような情勢であったからこそ、豊かさを意味する年号へ改元したという情報が、広まりやすかったと想像できます。

企画展「中世東国と改元」

当館が所蔵する全 5 点の私年号板碑は、7 月 27 日(土曜日)から 10 月 27 日(日曜日)まで、府中市郷土の森博物館の企画展「中世東国と改元」で展示されます。これを機に、府中まで足を伸ばしてみたいかがでしょうか?(早坂廣人)



「福德二年」と彫られた板碑(写真内四角部)



阿弥陀三尊種子板碑(福德二年)全体像
(7 月 10 日から府中市に貸出します。)

＊ ＊夏のイベント予定＊ ＊

●マイミュージアム

「古民家模型の世界」

ロビーで展示中の旧大澤家住宅模型の作者による作品展です。和光、朝霞、志木、三芳の古民家です。その精巧さを堪能ください。

会期／8月3日(土)～8月25日(日)

会場／特別展示室

●じゃがいも掘り

とき／6月16日(日)午前10時～正午

集合場所／旧金子家住宅前(畑は公園の隣です)

定員／30組(申込順) 参加費／1組1000円

主催／難波田城公園活用推進協議会

申込み／6月1日(土)午前9時から電話で

●竹かご教室

「六ツ目かご」を作ります。

とき／6月23日(日)午前9時半～午後4時

会場／講座室 対象／中学生以上

定員／12人(申込順、初参加優先)

参加費／1000円 指導／資料館友の会竹かご部会

申込み／6月8日(土)～14日(金)午前9時から午後5時の間に電話で

●糸つむぎ(糸車)体験

とき／8月1日(木)、8月8日(木)

午前10時～正午、午後1時～3時
(体験は5～10分程度)

会場／旧大澤家住宅 対象／子ども～大人

指導／資料館友の会木綿部会

●ふるさと体験「藍の生葉染め」

藍の葉で絹のストールを染めます。

とき／8月3日(土)午前9時30分～正午

※雨天の場合は4日(日)に延期

会場／旧金子家住宅 材料代／2000円

定員／10人(申込順、初参加優先)

指導／河野悦子氏(染色愛好家)

申込み／7月2日(火)～7日(日)午前9時から午後5時の間に電話で

●子ども裁縫教室

縫い物の基本を習い、作品を作ります。夏休みの宿題にも!

とき／8月7日(水)午前10時～午後2時

会場／講座室

対象／小学生～中学生

定員／16人(申込み順) 参加費／300円(材料代)

作品／どちらかを選択

きんちゃく袋(初心者向け)

ポケットバッグ(経験者向け)

指導／美楽の会

申込み／6月29日(土)午前9時から電話で

●夏休み古民家宿泊体験

古民家に泊まって、昔の暮らしを体験しよう!

とき／8月10日(土)午後1時～11日(日)午後2時

内容／竹細工(コップや箸)、手打ちうどん作り、ごえもん風呂、七輪で焼き魚など

対象／市内在住の小学4～6年生

定員／16人(申込順) 参加費／1500円(材料費・食費)

申込み／6月30日(日)午前9時から電話で

●早朝の蓮を見学できます

6月8日(土)～7月7日(日)の土・日は、午前6時に開園します。開花状況はお問い合わせください。なお、資料館や古民家は通常どおり午前9時開館です。

●ちよつ蔵市(難波田城公園活用推進協議会主催)

6月16日(日)ふかしいも(じゃがいも)

7月28日(日)流しそうめん

8月はお休みです。

※他にも様々なイベントがあります。各イベントの詳細は、広報富士見やポスター、チラシ、公式サイトなどでお確かめください。

◆田舎まんじゅう販売

第1、3日曜日 10:30～

◆お月見亭(予約制手打ちうどんランチ)

6月11日、7月9日 11:30～13:30

※8月はお休み



富士見市立難波田城資料館

Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1

https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryokan/nanbatajo/index.html

◆休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)

資料館公式サイト

